



ROTARIANS
UNITED IN SERVICE
DEDICATED TO PEACE

ロータリアン
奉仕に結束
平和に献身



会長 吉野 勲 幹事 板垣広志 クラブ奉仕 高橋良士 職業奉仕 飯野準治 社会奉仕 佐藤元伸 国際奉仕 阿蘇司朗 青少年奉仕 菅原辰吉

出席報告：会員 83名 出席 39名 出席率 57.35% 前回出席率 82.35% 修正出席 63名 確定出席率 92.65%

第9回 R・Y・L・A 研修会に参加して

ゲストスピーチ



菅原 孝子 さん

始めまして、菅原孝子でございます。

去る11月20日～22日の3日間ライラ研修会に参加させていただき本当に有難うございました。

研修テーマである「友情の輪を広げよう」という事で講演、レクリエーション、

討議、パネルディスカッション、奉仕活動、グループ別討議、発表と、盛りだくさんのスケジュールでしたが、とても有意義な3日間でした。

ロータリーという言葉も始めて聞いた私にとっては、出発する前はとても不安でしたが、各方面から集まった仲間と交流を深めていく内にうちとけ、年齢の差も気にしなくなり、3日間一緒に生活した人、話し合いをした人と多くの友達も出来、本当によかったと思います。

テーマである「友情の輪を広げよう」という事に対して言葉では言い表わす事が困難な程、多くの事を学ばせていただき、今後の私の人生にとって大きな財産になったと感謝しております。今回私にこのような場を与えて下さった皆様に重ねて感謝いたします。どうもありがとうございました。

青少年奉仕委員長 菅原辰吉君

只今の菅原さんの報告のとおり、先日、第9回 R・Y・L・A (Rotary Youth Leadership Awards =ロータリー青少年指導者養成プログラム) が福島県会津少年自然の家で実施され、テーマは「友情の

輪をひろげよう」参加者は一般が99人、ロータリアン40人、計139人であった。当クラブからは一般が三浦産婦人科の菅原孝子さんと、ロータリアンの私と2名が参加した。

初日は10時30分より受付登録、オリエンテーション、昼食、開講式、基調講演「友情の輪をひろげよう」と題して、教育評論家の安達清先生の講演があった。要旨は『現代は情報化社会であり、途中経過がなく結論だけだ。簡単に頭に来る。又、テンポの早い高速社会なので連帯感がなく、周囲が見えず、結局自分自身しかない、自己中心の社会に来ている。これから青少年は、第一に途中経過を見逃さない考える人になってほしい。感じる人間は多勢いるが、考える人になれば、即ち観察し、ひらめき、論理により組立てる、そして答を出す事が大切だ。第二は思いやりをもってほしい(即ち友情の輪である)。これは償いを求めない愛であり、奉仕に通ずる。第三は心身は健康でたくましくなければならない。この三つは一人では仲々難しい、集団を組んで努力する事が必要である。先輩と一緒に縦の友情、又、横の友情をもってほしい』という事であった。この基調講演の後、レクリエーション、夕べのつどいと続き、夜はグループ別討議を行なった。

2日目は6時30分起床、朝のつどい、奉仕活動に続いてパネルディスカッションがあった。パネラーは立川恭子先生、国馬善郎先生、安達清先生の3人で、立川先生は「信じ合う事が友情」であり、国馬先生は「国際間の友情」を、安達先生は「自分をさらけ出してつき合うと友情が生まれ、自分に核を作ると友情は消える」と力説された。次にグループ別討議、記念講演に「日本人漱石の道」と題して、福島県立博物館長高橋富雄先生が講演をされた。福沢

庄内空港の建設を推進しましょう

諭吉、新渡部稲造、夏目漱石は国民の大多数が推す近代日本を代表する日本人の顔である。福沢は日本の近代化を理論的にくみあげた人であり、新渡部は近代における国際性をもった人……実際上の国際人である。漱石は生活の中から考え方、生き方が先ず人間であり日本人であった。人間として、日本人として道徳、哲学、宗教を含む作家としてユーモアを持ち、ロマンを語った。日本人の人格はどうあるべきか、日本人である限り日本人の人格を作り出す、これが日本人の道だ。これが世界の道となとした。大正3年11月25日、学習院で講演をされた。その主旨は、日本人の人格、日本はどうあるべきかを論じられた。自分は大学の英文学を卒業したが大学で何を習ったか、それが全くない。文学とは何か、英文学とは何か、全く自信がない。之で教師となる資格があるのか、今日の日本人には之程真剣に考えている人が少ない。……ここに今日の日本の教育の問題点がある。熊本の第五高等学校の先生になり、国から外国留学を進められたが洋行しても何もプラスにはならないと断った。校長に特に進められて洋行した。今迄の他人本位でなく、自分がこう思うという考え

に立ってから、之が日本人の道だ、日本人である限り日本人の人格を作り出すこの自覚、之が世界の道となる等と話された。高橋先生は若い人には漱石の作品を読む事を進めるといふ事であった。私も鶴岡に帰って漱石の「私の個人主義」を読んだが、高橋先生の話の詳細が述べられていて面白かった。皆様にも、読まれたかも知れませんが、尚興味のあられる方にはお奨め致します。続いてレクリエーション、夕べのつどい、キャンドルファイヤー、自由交歓であったが、24時半迄部屋で内緒に討論をした。

3日目は朝6時30分に起床、朝のつどい、奉仕活動、グループ別反省、グループ別発表、閉講式、昼食をとり12時30分に解散となった。

びっしりと3日間組立てられた日程であったが、総体的にグループ別討議、グループ別発表にもあった様に、友情とは仲々難しい。今迄研修生には仕事が多忙しくてこんな話し合いをする事があまりなかった。貴重な講演、討議の機会を与えてくれたロータリーに深く感謝し、又、今大会を高く評価する。今後友情の輪をひろげる事に努力し、一つでも多く実践して行きたいと再会を期して解散した。

会長報告

吉野 勲 君

去る12月1日の例会でご賛同頂きました山響クリスマスコンサートの件でございますが、例会終了後山響の事務局と色々打合せいたしました。主催を当鶴岡ロータリークラブと山形交響楽協会で、後援には鶴岡市教育委員会、荘内日報社、NHK鶴岡放送局、山形放送、山形新聞社、山形テレビさんをお願いいたすことに決まり、各団体さまには快くお引受け下さいました事厚くお礼申し上げます。

さて、入場料をどのようにするかという事になり色々ご意見がございましたが、結局山響さんの強い要望で、特に当市の小中高校生を対象に聞いて頂きたいと云う事に着き、会員各位には多大のご負担をかける結果に相成る訳ですが、入場無料となりました。この入場整理券につきましては、会員の皆様の所にも配布いたします。何卒PRに努めて頂き、盛会裡に終りたいと思います。尚、先日私と幹事名で全会員に広告掲載のご依頼状を発送してありますが、出来るだけ多くの会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

又、入場整理券は皆様に若干数お届けいたしますが、その外の配布場所は鶴岡R.C事務局、文化会館、

荘内日報社、NHKさんとなっております。

幹事報告

板垣 広志 君

○例会日時・場所変更

鶴岡西R.C クリスマス家族会のため
日 時 12月18日(金) 午後6時30分点鐘
場 所 グランド エル・サン
登録料 7,000 円

酒田R.C クリスマス家族会のため
日 時 12月23日(水) 午後6時点鐘
場 所 ホテル リッチ酒田
登録料 5,000 円

酒田中央R.C クリスマス家族会のため
日 時 12月25日(金) 午後7時点鐘
場 所 ホテル リッチ酒田
登録料 1,500 円

酒田東R.C クリスマス家族会のため
日 時 12月22日(火) 午後6時点鐘
場 所 酒田産業会館
登録料 5,000 円

○会報等到着

鹿児島西R.C、鶴岡西R.C、東京R.C
東北電力情報

“あかり”について

日向一男君



新入会員として、皆様の前でご紹介されてから早くも1カ月たちました。また、本日は、大変貴重な時間を頂戴致しまして大変ありがとうございます。入会致しましてから何かと分らないことが多く、皆様には、大変ご親切にご指導戴きまして大変感謝致しております。この席をお借りしまして御礼申し上げます。

入会以前は、週一度の例会に、はたして時間が取れるだろうか、一番気にしておりました。最近ではお客様にも例会出席のことを話し、時間帯をずらして戴くなどをお願いしましてご理解願っています。まだ1カ月しかたっていませんが、例会も楽しく過ごさせて戴いておりますし、何とか続けていくことが出来るという自信がつかしました。

初めのうちは、大変まごつきましたがS・A・Aの仕事も少しずつ理解してきましたので、任期満了まで一生懸命努めさせて戴きたいと思います。

以前、ご挨拶の時もお話ししましたが、私の仕事であります、電気設計という仕事は、一般の住宅の配線設計から店舗、工場、病院、学校など多種多様に及んでおります。

今日は、この仕事にちなんで“あかり”の話をしたいと思います。電気のエネギーを最初に実用的に利用した用途は、アーク灯でありました。エジソンが日本の竹を取り寄せて、それから繊維を取り出し、電球のフィラメントとして利用したのは、とても有名な話です。光源の発光の方法には、「温度放射」と「ルミネセンス」の2種類があり、我々がエネギーの不思議さを痛感し、物質のミクロの世界の神秘さに思いをいたすのは、後者のほうであります。蛍光灯や光る壁と言われる電子ルミネセンス、さらに大昔から人々の心をつらえたホタルや夜光虫などの生物ルミネセンスなど……。

まずは、簡単に温度放射ということからお話します。その昔、武家時代の名刀の出来具合は、鉄の焼

き入れ具合で決まったと言われ、その温度は鉄の肌色で決まったと言います。

物体の温度をゆっくりと上げて行くと400～450℃位で暗赤色になり、さらに温度を上げて行くと赤、橙、黄、白の順序に変化して行きます。皆さんの家庭でよく一般的に使用されている白熱電球は、このような温度放射を利用したもので、必然的に電球は高温になります。言ってみれば、光を出すために高温の電熱器を作っているようなもので、光を取り出すエネギーの効率は非常に低く、能率時代の今日としては、珍しく幼稚な方法であります。

一方、ルミネセンスとは、温度放射以外のものの総称であり、これは励起された原子や分子やイオンがそのエネギーを放出するものであります。

ルミネセンス発光には、何らかの刺激が必要であり、刺激の種類によっていろいろ分かれます。また発光の継続時間により、「りん光」と「蛍光」に区分され、蛍光は、刺激の作用している間だけ発光し、刺激を取り去ると直ちに止むものを言い、蛍光灯のようなものを言います。りん光は、刺激を取り去った後でも、数分から数日もエネギーを蓄積し、発光を持続するもので、夜光時計などは、この応用であります。今日、照明に最も多く利用されているのは、電気ルミネセンスを利用した蛍光灯や水銀灯、ネオン管などであり、特に蛍光灯の年間生産高は、「ロータリーの友」№11 卓話の泉にあるように日本は、2億5千万本であり、米国の2億本、欧州の1億～1億5千万本で大変多く使用されています。

一口に照明と言っても、受けとりかたは、人によってまちまちであり、特に最近単に必要な明るさを得るだけでなく、対象物の色感を損なわず、適度なアクセントがあり、また場合によっては気分転換を促す、いわゆる「ムード照明」が求められています。一頃の蛍光灯一本槍の照明方式は、少なくなり点光源であり、暖色系の白熱電灯の併用が多くなってきました。

しかし照明の本来の進歩の方向は、点(白熱電灯)→線(蛍光灯)→面(ELランプ)の流れがあります。ところが先述のように人は、一概にそのように納得

しない所がおもしろいと思います。つまり、陰の少ないむらのない均一照度の照明は、確かに太陽照明に近づくものでありますが、人間はそれに強い反発を示す本質があります。わさびやけんのない刺身がつまらないのと同様に、アクセントや変化のない照明は、飽きられるのだと思います。

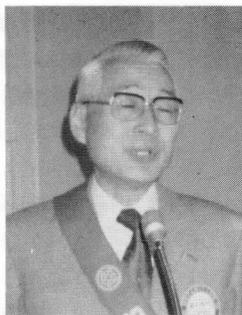
我々がもし全面照明の部屋に入れられたとしたら

どうでしょうか、全面が鏡の部屋に入れられたのと同様に落ち着かず、しまいにはノイローゼになってしまうのではないのでしょうか。

まだ商品化は、なっていませんが未来の照明器具と言われて話題になっている、「ELパネル」は影の少ない均一照明を狙ったものでありますが、その使用については、十分注意する必要があるようです。

東 北 の 中 の 庄 内

秋 野 昭 三 君



庄内人は積極性に乏しいとか、人の足を引っ張るとか、よく耳にします。しかし、それは本質をついていないと思います。

私も昭和20年鶴中を卒業以来、昭和57年定年を前に帰ってくるまで37年他所で暮らして参りまして、よそ

の人になりかかっていた訳です。その体験から言ってみれば、人の交流が十分に独善的考えがはびこらない環境にあるならば、積極的に優秀な業績を上げ得る素質を備えているものと考えています。

身近な例をあげるならば、NHK鶴岡局の事例があります。鶴岡局は、開局以来いろいろな人の交流があり、その知恵や考えが蓄積され、良い伝統となって今に生きています。営業成績は全国でもトップの座を維持していますが、第一線で活躍しているのは積極性に欠けるなどと言われている庄内の人間なのです。

私は勤務の関係で、青森、盛岡、仙台などに住みましたが、いろいろなカルチャーショックを味わいました。青森では転勤で8月に赴任したところ、道路の真ん中でリヤカーに積んだ丸ノコで丸太を切り、薪を割っておりました。炬燵に火鉢の生活に馴れた私にとってまさに驚きでした。独特の発声の津軽民謡、青森弁、豪壮なねぶた祭り等庄内では触れる事の出来なかったものに触れ、大きな刺激をうけたことでした。

“井の中のかわず”になることは、怖いことです。盛岡局では、営業を担当しましたが、当時盛岡の営業成績は芳しくありませんでした。岩手県は広大で

しかも貧しい、成績が悪いのは当たり前という意識が支配していました。他との交流が少なく空気が凝っていたのです。私は放送部からの移籍で、若干毛色が変わっていて常識に捕らわれずに行動出来たし、何よりも上部の配慮による人事の交流が新しい意識を形成するのに役立って業績が向上し、なんとか任務を果たすことができました。

青森にしろ、盛岡にしろ優れた人材が数多く輩出しており、秘められた素質は素晴らしいものがあると思います。

高速交通網から取り残された庄内にも、やがてこれが整備される日がやってきます。北前船で繁栄したかつての庄内、それを上回る庄内を期待したいと思っています。

ス マ イ ル

大 森 知 夫 様 (社団法人山形交響楽団理事)

「山響クリスマスコンサート イン鶴岡」の開催にあたり、貴R.Cのご理解とご協力に感謝いたしまして。(先週お預り)

ビ ジ タ ー

な し

